



真に町民に開かれた 議会を目指して

津別町議会議長 鹿中 順一

新年明けましておめでと
うございます。
依然として景気が低迷し、さらに東日本大震災という歴史的な大災害にも見舞われた昨年でしたが、町民の皆さまにおかれましては、今年こそ輝かしい新春であつて欲しいと願い、新しい年をお迎えになったことと思います。
今年には伝説の生き物である辰（龍）の年であり、「正義感と信頼を表す年」と言われています。この言葉は町政を進める上で最も重要な言葉であり、国政においても是非このことを肝に銘じて欲しいと願う次第です。
さて、津別町のまちづくりは、「町は舞台、町民が主役」をテーマに、「第5次総合計画（2010～2019）」の実践により進めているところです。私の2期目の公約も、この計画をベースに組み立てており、それらを一つひとつ実行に移しているところです。
かつて津別町は16000人台後半の人口を数えましたが、今日5700人を割り込み、これに合わせるように中心街の灯が一つまた一つと消えていきました。

新年明けましておめでと
うございます。
町民の皆様方におかれましては、ご家族おそろいでお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますと共に、栄え行く将来を寿ぎ、議会を代表いたしまして謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
日頃は、議会に対しまして格別のご指導ご鞭撻を賜り、お蔭様で大過なく新年を迎えることができましたことを心から感謝申し上げますと共に、厚く御礼を申し上げます。
さて、昨年は東日本大震災により多くの尊い人命が失われ大変残念な年でありました。一日も早い復興への歩みを推進しなければなりません。
国政を見て参りますと、被災地の復興、環太平洋連携協定、防衛など国民の政府に対する信頼が大きく揺らいだ年でありました。
本来、国は国際社会における国家としての存立にかかわる外交・防衛や全国的視点に立った経済政策、国家戦略に基づいた取り組みべきプロジェクトなどに責任を持っており、今一

度、国の役割がしっかり問われなければならない時期を迎えております。
他方で、住民に身近な行政はできるだけ自治体や地域で担っていかなければならぬとされております。
どこの市町村も厳しい社会情勢を乗り切り、さらに発展させていくため、それぞれに試行錯誤しながらさまざまな取り組みをしています。が、今後も少子化が進み、それによる労働人口の減少や地域の活力の低下といった問題が、より深刻になっていくことは避けて通れません。一方でますます多様化する住民ニーズに対応しなければなりません。ぜひとも町民の皆様とともに力を合わせ、人と予算を有効に活用し、明るく住みよいまちづくりを推進していきたいと考えております。
地方分権の進展により、地方公共団体の自主的な決定と責任の範囲が拡大した今日、議会は意志決定機関としてその持てる権能を十分に駆使し、町が行う事業を広く町民に明らかにする責務があります。
本町議会においても町民の目線に立ち、真に町民に開かれた議会を目指して取

り組みを進めているところ
であります。
我々議員一同は、改めて議員としてのその責務の重大さを認識するとともに、我が津別町が更なる発展を期せるよう、議会活動を全うする所存でございますので、なお一層のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
結びになりましたが、町民の皆様は益々のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



津別峠から望む雲海と日の出

農・林・花・国際交流 ・・・未来へつなぐ

津別町長 佐藤 多一

新年明けましておめでと
うございます。
依然として景気が低迷し、さらに東日本大震災という歴史的な大災害にも見舞われた昨年でしたが、町民の皆さまにおかれましては、今年こそ輝かしい新春であつて欲しいと願い、新しい年をお迎えになったことと思います。
今年には伝説の生き物である辰（龍）の年であり、「正義感と信頼を表す年」と言われています。この言葉は町政を進める上で最も重要な言葉であり、国政においても是非このことを肝に銘じて欲しいと願う次第です。
さて、津別町のまちづくりは、「町は舞台、町民が主役」をテーマに、「第5次総合計画（2010～2019）」の実践により進めているところです。私の2期目の公約も、この計画をベースに組み立てており、それらを一つひとつ実行に移しているところです。
かつて津別町は16000人台後半の人口を数えましたが、今日5700人を割り込み、これに合わせるように中心街の灯が一つまた一つと消えていきました。

哲学者の内山節さんは、ブランドデザインとは具体的な計画よりも、その地域をつくりだす思想にこそあると語っています。賑やかだった過去に戻ることはできませんが、変わらなければならぬ何かがあるとすればそれは何か。そのことを意識しながら町づくりを進めたいと考えています。
津別町の現状と特徴は「少子高齢化が止めどなく進行しているまち」、「農業と林業を中心とする第1次産業のまち」といえるでしょう。高齢化が進んでいるというところは、反面、長生きできる町ともいえます。より長生きできるように活躍の場を拡大するとともに住環境や交通網の整備が必要になると考えています。子供の数が少ないのであれば若い人たちが引っ越してく

る町にする必要があります。子育て環境と住環境を整えるとともに、出会いの場づくりのお手伝いをするのも必要でしょう。
さて、町の特徴である農業は極めて元気で遊休農地がありません。日本初のオーガニック牛乳など付加価値を付ける取り組みが進み、有機農業の耕畜連携も進められています。法人化も進み、後継者が育っています。農業青年は地域の活性化に熱心で、様々な活動を展開しています。今後、地域食材を使った美味しいものづくりなどの取り組みに期待したいと思います。
一方、林業は丸玉産業株式会社を中核に、植林、伐採、加工に至る一連の木材関連会社がそれぞれ健在で、町の林産業を支えています。今年には木質バイオマスエネ

ルギーの利活用研究を更に進めます。
長く住み続けるのなら、きれいな町がいいとも考えています。過去に活発な花いっぱい運動が展開されましたが、財政難と高齢化による担い手の減少から規模を縮小しました。美しい町をめざし再び取り組みを開始するため、今年にはフラワーマスターの資格取得者を大幅に増やす予定です。
台湾彰化県二水郷との関係も、これまでの交流成果を踏まえ、友好都市を結ぶ予定です。そして、まずは次代を担う子供達に、外国から日本を見つめ直す機会を与えたいと思います。
結びに、皆さまにとって本年が良い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。